

現地調査の実施状況

- ・ 6号機シールドプラグの形状測定
- ・ 1号機タービン建屋地下1階の予備調査

2022年10月31日

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

(1) 6号機シールドプラグの形状測定
(2022年10月13日)

(1) 6号機シールドプラグの形状測定

(1) 目的

2021年12月に実施した2号機シールドプラグの形状測定結果を基にシールドプラグの変形の可能性を検討するため、比較検討用に3Dレーザースキャナーによる6号機シールドプラグの形状測定を実施した。

(2) 場所

6号機原子炉建屋6階オペフロ

(3) 調査日

2022年10月13日(3Dレーザースキャン)

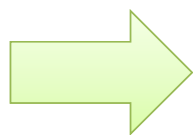
(4) 調査実施者

原子力規制庁職員 4名

(5) 被ばく線量

最大: 0.27 mSv、最小: 0.06 mSv

※被ばく線量[mSv]の最大、最小は、調査実施者のうち、最も被ばく線量の高い人の値と低い人の値を1日の合計値として示した。



詳細は、資料4-1「2号機シールドプラグの変形について」を参照のこと。

(2) 1号機タービン建屋地下1階の予備調査
(2022年10月21日)

(2) 1号機タービン建屋地下1階の予備調査

(1) 目的

東京電力福島第一原子力発電所事故時の1号機原子炉建屋からの放射性物質の放出経路の推定等に資するために、今後、1号機タービン建屋地下1階フロア内の汚染分布、フロア内での試料採取等を計画している。

今回は、その予備調査として、同フロア内の状況調査(入域可能箇所の確認、空間線量率の測定)を実施した。

(2) 場所

1号機タービン建屋地下1階

(3) 調査日

2022年10月21日

(4) 調査実施者

原子力規制庁職員 4名

(5) 被ばく線量

最大: 1.6 mSv、最小: 1.0 mSv

※被ばく線量[mSv]の最大、最小は、調査実施者のうち、最も被ばく線量の高い人の値と低い人の値を1日の合計値として示した。